

脱炭素行動宣言認証者一覧（2025年4月30日時点）

※〇エコ会議理事 ●エコ会議会員

N o.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
1	あおみ建設株式会社横浜支店 川崎営業所		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、あおみ建設社有車を「2030年」までに※電動車100%かつEV車30%以上の導入率を目標とする。 ※電動車：EV車、HV車、PHV車、FCV車の4種
2	麻生区クールアース推進委員会	〇	市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「麻生区クールアース推進委員会は、地球温暖化の現状を多くの市民に知ってもらい、解決に向けて共に行動する人々を増やすため、区役所と協働して自然エネルギーや省エネルギーなどの普及啓発活動を進めて」いきます。
3	旭化成株式会社 製造統括本部 川崎製造所	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに、GHG排出量30%以上削減(対2013年度)を目指し計画を具体化していきます。
4	NPO法人アジア起業家村推進機構と会員（DELE株式会社）の協働	〇	市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「世の中の情報機器の廃棄物ゼロを目指」していきます。
5	味の素株式会社川崎事業所	〇	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに「温室効果ガスのNet Zeroを達成」していきます。
6	EM普及活動研究会		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2040年」までに 「①EMによる生ごみリサイクルの普及活動を過去20年間継続してきました。これからも更なる20年を目指し、活動してゆきます。②市内小中学校における、環境授業の派遣授業の継続。③市内の農家さんの依頼による、竹や木材・収穫残渣を無煙炭火器によるEM整流炭づくりの支援活動を行います。」
7	株式会社イスズ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに、以下を取組むことを宣言します。 ①太陽光発電を10MW以上施工し、年間3000t-CO ₂ の脱炭素に寄与します。 ②オフグリットトレーラーハウス及びその他オフグリット施設を100箇所以上設置し、年間60t-CO ₂ の脱炭素に寄与します。 ③川崎市主催等の脱炭素事業に毎年積極的に参加をし、脱炭素取組のPR、周知に注力します。 ※CO ₂ 削減の条件として、太陽光発電1kWhによるCO ₂ 削減量を0.312kg-CO ₂ としています。
8	一般社団法人 川崎市商店街連合会	〇	業界団体	商店街の街路灯のLED化を促進します。 省電力型の防犯カメラの設置を促進します。 商店街において温室効果ガスを削減できるよう、会員間の情報共有を図って参ります。 再生可能エネルギーを導入するよう働きかけを行っていきます。
9	株式会社井の雅組		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「CO ₂ 排出量を1.5%削減します。」
10	ウエインストヨタ神奈川株式会社 溝ノ口店		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに太陽光発電システムや蓄電池の導入など「カーボンニュートラル店舗の設営」を推進していきます。
11	ウォータースタンド株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「使い捨てプラスチックボトルを30億本削減していきます。」
12	有限会社 宇佐美		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「2020年を基準とした燃料使用による二酸化炭素排出量を25%削減」していきます。
13	株式会社エイワ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2040年」までに ○ 太陽光設備の設置を導入します。 ○ 営業車を5台次世代自動車にしています。 ○ 照明を100%LED化します。 ○ 事務所外壁改修時に省エネ効果のある遮熱塗装を実施します。 ○ 2023 住宅省エネ支援事業者登録をして客先にキャンペーンを周知します。
14	エコガーデンはるひ野	●	団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、家庭から出る生ごみを堆肥化して花壇に利用することで「ごみの削減」に取り組んでいます。さらに取り組む世帯が増えるよう、ダンボールコンポスト講習会や花を題材にした講座を行い、参加者に呼びかけます。 また、今後は生ごみ堆肥だけではなく、植え替え時に抜いた花苗を落ち葉などと一緒に木枠コンポストで腐葉土を作る方向での取り組みを進めています。
15	株式会社エコプロ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2023年」までに 「弊社内ごみ減量化90%達成」していきます。
16	株式会社エス・イー・アイ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに、川崎市のCO ₂ 排出量半減に貢献していきます。 その実現に向けて、地球温暖化や気候危機を取り巻く課題の共有や、必要なアクションについて考えていただける「CO ₂ 排出量半減をシュミレーションできるカードゲーム【脱炭素まちづくりカレッジ】を活用したワークショップ形式の講座を提供致します。
17	N-システム株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて「2030年」までに ・仕事柄省エネ工事を行って居り、空調設備、衛生設備、電気設備の省エネを提案し、インバーターによる電力の省エネや風量省エネを提案し、仕事に結びつけていく。 ・事務所内の電気(電力)使用量を減らすため不要な電気を切り削減する。
18	N T T 東日本川崎支店	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて ・「2030年」までに一般車両のEV化100%を目ざします

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
19	荏原実業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「企業活動における環境負荷改善を実施し、温室効果ガス排出量を削減」していきます。
20	株式会社エンカウター		企業	《株式会社エンカウターカーボンゼロ宣言》》 2050年の脱炭素社会の実現に向けて、私たち株式会社エンカウターは、地球環境の保護と持続可能な未来の実現に貢献することを企業の重要な使命と認識し、2050年までに事業運営における温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることを目指します。これは私たちの事業活動において積極的に環境負荷の軽減を推進し、温暖化対策に向けた真摯な取り組みを進めるための第一歩です。具体的には以下の取り組みを進めてまいります。 - 再生可能エネルギーの導入 自社施設や事業所において、再生可能エネルギーの利用を拡大し、クリーンエネルギーの導入を積極的に進めます。 - 省エネルギー対策の強化 省エネ技術を導入し、業務全体におけるエネルギー消費の効率化を図ります。 - 低炭素車両の導入 事業における輸送手段として、電気自動車や水素自動車を導入し、排出ガスの削減を実現します。 - 社員教育と意識啓発 社員一人ひとりが環境意識を高め、業務における環境負荷を最小限に抑える行動を取るための教育と啓発を行います。 - 地域社会との協力 地元コミュニティや取引先との連携を強化し、共にカーボンゼロ社会の実現に向けた活動を進めます。 私たち株式会社エンカウターは、環境に優しい事業運営を行い、未来の世代に豊かな自然を引き継ぐために、全社員一丸となって取り組んでまいります。持続可能な社会の実現に向け、今後も不断の努力を続けていく所存です。
21	株式会社大本組 横浜支店		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030～2040年度」の出来るだけ早い段階までに「施工における二酸化炭素排出量の2013年度比40%削減を目指して取り組みを推進」していきます。
22	岡村建興株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2027年度」までに ・SRコンクリートの製造により、2022年度比20%以上のCO ₂ 削減及び産業廃棄物の削減 ・社内照明のLED化 をしていきます。
23	花王株式会社 川崎工場	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2040年」までにカーボンゼロ、「2050年」までにカーボンネガティブを達成するため、脱炭素目標を策定し、SBTi (Science Based Targets イニシアチブ) から2019年認証取得した「2.0°C目標」に加えて、「BusinessAmbition for 1.5°C」への署名により、SBT 1.5°Cを目指します。 また、国際的イニシアチブ (RE100) への参加により、2025年までにすべての購入電力を再生可能エネルギーにしていきます。
24	鹿島環境設備株式会社		企業	「2030年」までに電動化自動車の導入30%を目指します
25	鹿島田商店会		団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、まずは取組期間を3年間と設定し、環境問題への対策として誰もが実践でき、今からでもできる行動の選択肢を提示しながら、脱炭素社会における暮らし方を発信・実践する。省エネが生み出す経済循環、防災・減災や生活の質の向上 など様々な地域の課題解決に繋げ、地域が一丸となって環境変化に対応していくことが目標である。
26	学校法人調布学園 田園調布学園大学		学校	2050年の脱炭素社会に向けて、 ・大学生、教職員の意識啓発（教育、研修等）を行い、CO ₂ 排出削減のための一層の行動促進を目指します。 ・節電、節水、ごみ削減を行い、CO ₂ の排出削減に貢献します。 ・環境関連の学内外のイベントや活動を企画、参加し、CO ₂ の排出削減に貢献します。 ・校内の緑化（植樹）活動を推進し、CO ₂ の排出削減に貢献します。
27	一般社団法人 神奈川県トラック協会	○	業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「上部団体である公益社団法人全日本トラック協会と連携し、トラック運送業界全体のCO ₂ 排出原単位を2005年度比で31%削減することを目標（全日本トラック協会策定【トラック運送業界の環境ビジョン2030】より）」
28	株木建設株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年度」までに2021年度から起算し ・ペーパーレス化を促進させ紙の年間購入量を50%削減 ・環境に配慮し、電気使用量を30%削減 ・年度毎のグリーン調達率95%以上の確保 していきます。
29	株式会社 福田商店		企業	2050年の脱炭素社会の実現にむけて2050年内継続的に火育木育活動を地元市内、県内の子どもたちに訪問授業活動を行う 市内の里山に行き里山体験活動のプロジェクト現地スタッフ活動を行う 火育木育イベントのプロジェクトを行い開催する 市内の里山森林保全活動ならび次世代に継続するための協賛活動を行う 県内の森林保全活動ならび次世代に継続するための協賛活動を行う 2050年以降につきましても継続的に行う

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
30	株式会社研空社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年までに ・空調機入れ替え提案時は高効率機器を提案 全件数のうち提案率80%以上を目標 ・社用車をハイブリット車に随時入れ替え 2030年までに全台次世代自動車にする ・現場管理者のIPAD使用率を100%にする ・PPP、PFIの官民パートナーシップを通じて地域の経済的なエネルギー利用を提案。 川崎市内小中学校空調機更新時には省エネにつながる運用方法を使用者に提案。 小学生・中学生にも省エネの意識を持ってもらえるよう教室内に省エネ運用方法を掲示 川崎市の地域プラットフォームメンバーとしてセミナー、勉強会に参加。地域全体の省エネに貢献する。
31	株式会社はまりハ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに「訪問車をEV,PHEV,エコカーに」していきます。
32	株式会社マイルストーンジャパン		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、太陽光発電所の建設に関する機器の提供を通し、今までに建設できない困難な地盤の場所に有機的に効果を出す製品の開発を行い、事業者や需要者に対して価値を見出してまいります、また自社消費型で再生可能エネルギーを取り入れ「2030年」までにオール電化にできるように取り組みます、そして弊社工場においては、全てを蓄電された電気で賄えるような移動式のトレーラーハウスを事務所に変更し、安全に配慮した取り組みを同時に進めて参ります。
33	株式会社ミットヨ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに二酸化炭素排出量（Scope1・2）を「2018年度を基準に50%削減」していきます。
34	株式会社ロードカワサキ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2045年」までに ・工事作業車全てをAT車に変更し、CO ₂ の削減に貢献します。 ・工事に用いる合材は、CO ₂ 削減のものを使用します。 ・社内の照明を全てLED化します。 ・社員の意識啓発を行い、CO ₂ 排出量を5%削減します。
35	カミング・スーン合同会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「100%再生可能エネルギー化」していきます。
36	かわさきかえるプロジェクト	●	市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「人と自然が共生するエコシティ川崎」を目指し、市民活動による地域資源循環と、再生可能エネルギーへの取り組みを広げ、環境まちづくりの取り組みを広げます。
37	かわさき環境教育学習プロジェクト		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、まず、「2030年」までに「脱炭素社会に向けた場づくり」を行なっていきます。
38	川崎港運協会		業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに「カーボンニュートラル化」を推進します。
39	公益社団法人川崎港振興協会		業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までの間 以下の項目を重点的に取り組んでまいります。 ・会議資料等のペーパーレス化及び会議のリモート化 ・廃棄物の減量化
40	川崎市工業団体連合会	○	業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「会員企業全てが脱炭素行動宣言を行い、脱炭素行動を実施していくように」していきます。
41	川崎市資源リサイクル協同組合		業界団体	2030年に向け、資源循環型社会の構築については、ISO14001等の環境マネジメントシステムに関する認証は取得していないが、今後継続的に環境面の活動を改善するための環境マネジメント体制の具体的な構築を目指すようにしたい。
42	川崎市新エネルギー振興協会	○	業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに温室効果ガスを80%削減に向けて地域社会の方々に広報活動及び啓蒙活動をする。
43	川崎市地球温暖化防止活動推進センター	○	その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて「2030年」までに 「かわさき市民と『脱炭素した豊かな暮らし』のイメージを共有し、2030年には、二酸化炭素の排出量の50%削減に向けて取り組みます。 そのために、学校での環境学習、地域での脱炭素アクションの普及に取り組み、川崎市のさまざまなシステムが『脱炭素が容易に行える社会制度』になるよう努力して参ります。」
44	川崎市で木育を広め隊		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、私たちは、次世代に持続可能で豊かな環境をつなぐため、0歳から大人までが楽しみながら参加することができ、脱炭素について学び考えることができる「木育おもちゃの広場」「木育紙芝居」「木育クイズ」等の機会を創り続けてまいります。 イベントだけでなく、常設の「木育おもちゃの広場」が設置され、そこで継続的に啓発・教育・人材育成等の展開が可能になることで、より効果的に脱炭素社会の実現に貢献できると考えております。
45	一般社団法人 川崎市電設工業会	●	業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2024年」までに 「1、蓄電池を活用して、現場作業での排ガスゼロを達成する。 2、会員各社のEV化を促進する。会員各社の社用車のEV化の進捗・EV化率について、毎年調査。」 をしていきます。
46	かわさき市民共同おひさまプロジェクト	○	市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「川崎市内に再生可能エネルギーを活用した施設を増やす活動をします。住宅、福祉施設、地域の避難所などへの太陽光発電、農地での営農型太陽光発電を増やすことを目標として、普及活動、提案・助言活動をしていきます。
47	川崎市立平間小学校		学校	「2030年」までに地域や企業等と協力して炭素排出量を減らすために取り組みます。

N o.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
48	川崎信用金庫	○	その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、環境配慮型金融商品の提供や地域の事業者の脱炭素経営の支援を行っていきます。 また、「2030年」までに、当金庫の二酸化炭素排出量を2013年度比で90%以上削減します。
49	かわさき生活クラブ生活協同組合		業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「再生可能エネルギー主体の生活クラブでんきへのスイッチング推進、 自家発電消費型の施設の拡大、 自前および関連施設における省エネ型発電設備の導入促進、 事業から出るCO2の排出量を2013年度比50%まで削減」をしていきます。
50	株式会社川崎フロンターレ	○	企業	脱炭素社会の実現に向けて、川崎フロンターレのホームゲームや地域活動を通して市民への周知活動を推進して参ります
51	かわさきマンション協議会		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、マンションの外断熱化・太陽光発電と蓄電池による共用部分及び専有部分への電気供給・EV充電スタンドの普及
52	川崎未来エナジー株式会社	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、市域への再生可能エネルギーの普及・地産地消を推進するとともに、市民、事業者、金融機関等の多様なステークホルダーが参画できる地域エネルギープラットフォームの中核となります。
53	川崎臨港倉庫埠頭株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに省エネ及び二酸化炭素の排出量削減のため、2023年度から2030年度までに当社倉庫の既存照明設備をLED照明に更新するほか、カーボンニュートラルにかかわる取り組みを進めて行くことを目標とします。併せて、川崎港コンテナターミナルのカーボンニュートラル化を目指します
54	川又電機工事株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・太陽光発電設備と蓄電池を導入し、電気使用量・CO2の削減を目指します ・事務所内の空調機を高効率機器に切り替え、電気使用量・CO2を削減します ・蓄電池等を利用し、工事現場でのCO2削減を目指します ・社有車のEV・PHEV化を進めます
55	独立行政法人環境再生保全機構	○	その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「電気使用量による温室効果ガス総排出量を2013年比（基準年）で50%削減。」していきます。
56	企業組合 労協センター事業団		業界団体	BDFをバスや農機具等に使用するなど地球温暖化対策に取り組んでいきます。
57	行政書士四季京法務事務所		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2025年」までに整所の二酸化炭素排出量を半減させていきます。
58	株式会社 クレハ環境 ウェステックかながわ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、自社の2030年度目標であるエネルギー起源CO2排出量削減※の達成と地域のカーボンニュートラルに貢献していきます。 ※削減目標30%以上（2013年度比）
59	京急建設株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「2019年度の主要な工事事務所の電気、ガソリン、軽油、都市ガス、LPG使用によるCO2排出量386t-CO2を247t-CO2（36%）まで削減」していきます。
60	京浜メンテナンス株式会社		企業	2050年の脱炭素社会に向けて、2026年までに開削工事より二酸化炭素を放出しない熱硬化や光硬化の工事を提案によりふやし、インフラの再整備・整備を進めたいと思っています。
61	有限会社研精工業所		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2024年に蛍光灯をLEDに交換します。
62	川崎工業振興倶楽部	○	業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 「会員企業にとって「有効で有意義な情報」を入手の都度、倶楽部のホームページに掲載し、情報提供による広報啓蒙活動を実施する。Ex「ccかわさきエコちゃんずメールマガジン」「スマートライフスタイル大賞受賞会員の紹介」等をしていきます。」
63	株式会社互幸ワークス		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに、①再生可能資源等を材料として製造された資機材の使用率を30%以上とします。②使用年数10年以上のOA機器（複合機）1台を省エネタイプを導入する。③社有車（営業車）5台をハイブリット車など次世代自動車を導入する。以上を目標として脱炭素化に向けた取り組みをしていきます。
64	栄石油株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2035年」までに「CO2排出量を30%減少」をしていきます。
65	佐野デザイン事務所	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2024年」までに 「仕事とプライベートの境界をなくし、小さな事を積み上げていきます。例えば ①仕事や家事で使用する消耗品などはなるべくまとめて発注し1回で受け取る②歩いていける店へ直接購入する③電気のアンペアを下げ省エネに努める④室内のインテリアに古木などを活用し、脱炭素とデザインを融合させる」をしていきます。
66	山九株式会社 首都圏DC支店		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までにCO2排出量▲42%を目指します。（2020年度対比）
67	特定非営利活動法人 産業・環境創造リエゾンセンター	○	市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに会員企業の温室効果ガス削減2013年度比50%以上削減できるよう、会員間の情報共有、情報発信を積極的に進めていきます。 NPO法人が入居している会館が再生可能エネルギーを導入するよう働きかけを行っていきます。 執務室の省エネ化に取り組んでいきます。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
68	三友環境サービス株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2045年」までに「施設の維持管理にかかるコストや新設に伴う経費について、ライフサイクルコストを検証し二酸化炭素排出抑制事業費交付金を活用した基幹的設備改良事業を実施することで施設の継続化を実現」していきます。
69	三和クリエーション株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「CO2排出量を2020年度比30%削減」していきます。
70	株式会社シーエスデー		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに 「株式会社シーエスデーは、ソフトウェア・製品の開発から原材料・部品などの調達、製造、流通などすべての過程において、 【地球温暖化防止のための低炭素社会の実現】 【資源の循環的・有効活用による循環型社会の実現】 【人々の健康や自然生態系、生物多様性を保全するための自然との共生】 に配慮し、地球環境への影響を可能な限り減少させるよう、自主的・積極的に行動」していきます。
71	CCあさお		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2024年」までに川崎市「脱炭素行動宣言」の実施に賛同し、川崎市の地球温暖化防止を推進するため、麻生の環境を守り自然と調和した脱炭素活動及び啓蒙活動を行う。また、様々な主体との協働での取組みを推進する。なお、当宣言は2年ごとに見直しを行う。
72	GBtechnology株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2025年」までに「事業用自動車の燃費向上（2%）を実現」していきます。
73	J F E スチール株式会社東日本製鉄所（京浜地区）	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 ・「2030年」までをトランジション期と考え、低炭素鉄鋼プロセスへの転換を推進します。 ・「2050年」までをイノベーション期と定義し、超革新技術の確立・実装により、カーボンニュートラルの達成を目指します。
74	株式会社 重田組		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに照明を80%LED化します。
75	重田造園土木 株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに照明を80%LED化します。
76	社会福祉法人緑成会 特別養護老人ホーム新緑の郷		その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに以下の取り組みます。 ・福祉車両を次世代自動車にします ・節電による電力量の抑制を通じ、CO ₂ 排出量を削減します ・省エネエアコンの導入を図ります
77	株式会社ショウエイ	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「業務用ろ過装置の販売」「ろ過省エネシステムの販売」により、社会全体の「水使用量」「熱量」「電気使用量」を削減することで、温室効果ガス排出量を削減」していきます。
78	松栄産業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・省エネナビゲーションシステム(導入済)の利用や社内の啓蒙活動を行い、空調電力消費量を5～10%削減します。 ・社内の啓蒙活動を行い、ゴミの分別を強化することで、CO2の削減に貢献します。 ・コンポストを設置し落ち葉回収で作られた腐葉土を植栽や周辺地域への提供に利用し、緑化に貢献します。 ・環境に配慮した機器を導入し、CO2削減に貢献します。
79	昌栄電設株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2024年」までに [環境方針] 環境関連法規、条例等を遵守すると共に、以下方針を全社に周知し環境経営の継続的改善に努めます。 1. 二酸化炭素排出量削減 2. 一般廃棄物排出量の削減 3. 産業廃棄物リサイクル率の向上 4. 水使用量の削減 していきます。
80	株式会社伸栄工事		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「本社の使用電力を再生由来の電力に切り替え」 していきます。
81	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	○	その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までに 2013年度を基準として、機構の事務及び事業に伴い直接的に排出される温室効果ガスの総排出量を40%削減することをめざしていきます。
82	信号器材株式会社	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに、CO2の排出量や無駄な資源の低減を意識した製品開発・製造・施工・販売を行い、「脱炭素社会・循環型社会の実現」を目指します。
83	シンヨー株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2026年」までに「事務所の省エネリフォーム（窓や壁の断熱リフォーム）」していきます。
84	スナイプバレー合同会社	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「地球温暖化／海洋温暖化への意識啓蒙を図るセミナーを毎年開催」していきます。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
85	生活協同組合ユーコープ	●	業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「CO ₂ 排出量を2013年度比51%削減」していきます。 ①店舗改装時のエコストア化（店舗の冷凍・冷蔵設備、空調、照明を高効率なものに入れ替え） ②宅配センター新設（冷凍・冷蔵設備の省エネ化、太陽光発電設備の設置、電気自動車） ③再生可能エネルギーを使用した電力会社からの電力調達 ④ユーコープのCO ₂ 排出削減の取り組みや到達点などのお知らせを内外に向けてお知らせ
86	総合警備保障株式会社 川崎支社		企業	2050年の脱炭素社会に向けて、「2030年」までに「社用車（乗用車26台）（2輪、3輪バイク11台）のエコカー化80%」を目指していきます。
87	ソーラーチーム		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「自然エネルギーの中でも、市民が取り組みやすい太陽光発電、太陽熱利用システムを利用する人が増えるように、普及啓発活動を行います。川崎市地球温暖化対策推進基本計画の2030年CO ₂ 半減、2050年までにゼロ目標、川崎市の再エネ推進の施策を伝えて、取り組みを促進」していきます。
88	ダイヤエ芸株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・工場内照明のLED化により電気使用量を15%削減します。(2023年度対比) ・電気使用量および二酸化炭素排出量削減状況を可視化し社員の意識啓発を行います。 ・再生可能エネルギーの導入効果を検証し、前向きに検討します。
89	大和塗装株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて「2050年」までに照明の90%以上をLED等の省エネ照明に更新します
90	武松商事株式会社		企業	2050年の脱炭素社会実現に向けて「2023年度」までに自社より排出する廃棄物を削減します
91	株式会社タマック		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・施工棟数の半分以上をZEH住宅とし、15%CO ₂ 削減に貢献します。 ・再利用可能な住宅建材の採用で、CO ₂ 削減に貢献します。 ・社内ペーパーレス化により、「紙の節約」「ごみ減量」をして、CO ₂ 削減に貢献します。 ・リモート管理による車両移動を削減し、10%のCO ₂ 削減を目指します。 ・WarmBizによる適切な冷暖房の利用で、5%電気使用量を削減します。
92	DELE株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「取引先すべての情報機器の廃棄物ゼロを目指す」していきます。
93	寺尾サッシ工業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ① 製造工場の照明を100% LED化します。 ② 社有車の50%をEV・PHEV化します。 ③ 蓄電池等を活用し、工事現場でのCO ₂ 削減を目指します。
94	株式会社Den		企業	2050年の脱炭素社会に向けて、「2025年」までに都市緑化によるカーボンニュートラル推進に関するアクションを具現化させます。
95	東亜建設工業株式会社横浜支店		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までに ・川崎国際環境技術展に継続して出展し環境技術の普及に努め、建設工事現場のCO ₂ 削減に貢献します。 ・社用車2台を次世代自動車にします。 ・再エネ電力の導入を促進します。
96	東京ガス株式会社 川崎支店 ※事業者名変更（旧 東京ガスネットワーク株式会社 川崎支店）	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までにカーボンニュートラルなガス【e-methane、CNL】を普及促進していきます。
97	東京電力エナジーパートナー株式会社 販売本部 南関東本部		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までに ●法人企業向け CO ₂ ゼロメニュー販売量100億kWh ●一般家庭向け 電化の促進（需要開拓電力量） 97億kWh以上 を目指します。
98	東京電力パワーグリッド株式会社 川崎支社	○	企業	●東京電力グループでは、「EV100」に参画し、「2030年」までに業務車両の100%電動化を目指しています ●東京電力パワーグリッド株式会社では、産業廃棄物等のリサイクル率99%以上の達成・維持に取り組んでおり、川崎支社では、「かながわプラごみゼロ宣言」を行い、プラごみ・紙ごみ等の区分や注意点をわかりやすく掲示し、ごみの分別を徹底します。
99	東芝エネルギーシステムズ株式会社 浜川崎工場	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・省エネ活動（節電、教育等による意識啓発等）を行い、CO ₂ 削減に貢献します。 ・環境に配慮した高効率機器を導入し、1%/年の電気使用量を削減します。
100	東都熱工業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2028年」までに ・社用車の全てを次世代自動車にします。 ・照明を100%LED化します。
101	東洋建設株式会社横浜支店		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「CO ₂ 排出量を45%以上削減（2013年度比）することを目指す」していきます。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
102	特定非営利活動法人アクト川崎	●	市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに川崎市が「脱炭素して豊かな暮らしを実現する社会」になるよう努力して参ります。そのために、川崎市民・事業者とともに「脱炭素した豊かな暮らし」を描き、二酸化炭素の排出量の50%削減に向けて取り組みます。特に、学校での環境学習、地域での脱炭素アクションの普及に取り組みます。
103	特別養護老人ホーム潮見台みどりの丘	●	その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 「2010年からおむつを捨てる時にビニール袋を使わず古新聞で包んできました。12年間で250万枚のビニール袋を使わなかった結果152トンのCO ₂ の削減ができました。この取り組みは今も、これからも続けていきます。2030年までに・・・263 トン 2050年までに・・・ 530 トンのCO ₂ 削減を目指していきます。高齢者が暮らす施設だからこそ出来る昔ながらの知恵と工夫で地球にやさしい生活を取り戻していきたいと思います。」
104	日本電気株式会社	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2040年」までに 「グローバルNEC全社で、 サプライチェーンCO ₂ 排出量のネットゼロを目指していきます。」
105	日本海工株式会社東京支店		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・陸上重機を順次更新し排出されるCO ₂ を削減します。 ・作業船での使用燃料を順次重油から軽油に変更し排出されるCO ₂ を削減します。 ・事務所での電力使用量を基準年度比（2021年）から3%の削減をいたします。 ・環境関連イベントやセミナー等に参画し社会的貢献と社員の啓蒙を図ります。
106	日本ダスト株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「低CO ₂ 川崎ブランドに認定されたNDK資源化リサイクル工場での中間処理サービスを通し、排出事業者様より収集した混合廃棄物を選別、破碎し多岐にわたるリサイクル処理先へお渡しすることで炭素の排出量を削減し廃棄物に新しい命を吹き込み環境保全に貢献」していきます。
107	熱研プラント工業株式会社		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「社有車のHV・PHV化を推進していきます。」 「環境に配慮した事務用品を購入・使用を推進していきます。」 「マイボトル・マイカップ普及に伴い、PETボトルの削減を推進していきます。」
108	ノーティス株式会社		企業	環境関連事業(リユース連携事業やアップサイクル事業)を「2030年」までに事業売上比200%以上に向上させます。
109	株式会社ノクチ基地		企業	私たちは2050年の脱炭素社会実現のため、メディアやコンテンツの発信を通して市民の行動変容を後押ししていきます。
110	ハヤシ・アンド・カンパニー株式会社		企業	2050年までに脱炭素社会の実現に向けて、2030年までに弊社対象商品の販売数を2倍ににして参ります。
111	早野聖地公園里山ボランティア		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、炭素の固定化に貢献していきます。 また、CO ₂ 削減(大気中への拡散)を継続的に実施致します。
112	日崎工業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、弊社は「2030年」までに Scope 1 およびScope 2 におけるCO2排出量、実質0を目指していきます。
113	ビッグバン株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「照明のLED化や老朽化した高圧受変電設備の更新工事などを通じて省エネで快適な生活に貢献」していきます。
114	有限会社廣田商店		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 弊社は産業廃棄物収集運搬業という直接環境に携わる業務を行っているため、資源循環型社会の構築の一端を担っていきます。
115	福吉塗装株式会社		企業	2050年脱炭素社会の実現に向けて、「2024年度末」までに化石燃料使用量の削減（基準実績の3%削減）していきます。
116	富士通株式会社	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、当社グループの事業活動における温室効果ガス排出量を2030年度に、バリューチェーン全体の温室効果ガス排出量を2040年度にネットゼロとする目標を掲げ、SBTiより2023年6月にネットゼロ認定を取得しました。 再生可能エネルギーについても、2030年度に事業活動における使用電力を100%再生可能エネルギーとすることを目指します。 また、サステナビリティ・トランスフォーメーションをリードする企業として、お客様・社会の課題解決にテクノロジーで貢献し、提供価値の拡大・向上を図っていきます。そしてサステナブルな未来をお客様やパートナーとともに実現していきます。
117	株式会社富士通ゼネラル		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「温室効果ガス排出量（スコープ1,2）を実質ゼロ」にしています。
118	株式会社ブリマジェスト		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「・企業のペーパーレス化支援と社内ペーパーレス化を併せて推し進め、「紙の節約」「ごみ減量」を図り、CO2削減へ貢献 ・CO2削減に貢献するサステナブルなサービスの提供 ・環境関連イベント、地域イベント（植樹祭、市民150万本植樹、等）やセミナー等に参画することによる社会的貢献と社員啓蒙」 をしていきます。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
119	プレス工業株式会社 川崎工場		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2025年」までに「高効率設備導入、生産工程見直し、生産性向上、生産工法の改善、業務効率化等の諸施策を推進し 2019年度比 21%削減 1,044t-CO2削減します。」していきます。
120	ベトリファインテクノロジー株式会社	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2025年」までに「川崎市内で集められるペットボトルを完全循環することに貢献」して行きます。
121	マイルド産業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「廃プラスチック類のマテリアルリサイクル率を5倍（※弊社2022年度取扱基準）とし、適切にリサイクルを促進」して行きます。
122	医療法人社団 前田記念会 前田記念武蔵小杉クリニック		その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「医療機器の更新には、医療安全を担保し消費エネルギーの削減を実現します。」
123	丸井・マルイファミリー溝口		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2026年3月期」までに「CO ₂ 排出削減量100万t以上」を実現して行きます。
124	株式会社丸井電設		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2035年」までに「会社建物をNearly ZEB化」して行きます。
125	みぞのくち新都市株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2026年」までに、「ノクティCO ₂ 排出量を2013年比で9,000トン削減」して行きます。
126	三井埠頭株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2033年までに構内照明設備の90%をLED化にして行きます。2033年までに業務車の90%を次世代自動車にして行きます。
127	三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、サステナブルファイナンスを推進して行きます。
128	特定非営利活動法人みどりなくらし		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、川崎市に暮らす子育て世代の方と「脱炭素した豊かな暮らし」をめざして、様々な企業や団体と連携し、広報活動や啓蒙活動を行います。
129	株式会社村瀬造園		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2045年」までに 1. 社員の意識啓発を行い、CO ₂ 排出量を50%削減します。 2. 照明を50%LED化します。 3. 営業車1台を次世代自動車にします。 4. 環境に配慮した機器・機材を導入し、電気使用量を50%削減します。
130	学校法人明治大学	○	学校	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2033年」までに 「1. 環境に配慮した機器を導入 2. 節電要請に伴う校内放送 3. クールビズ・ウォームビズの実施 4. リサイクルの徹底」して行きます。
131	メビウスパッケージング(株)川崎工場		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「メビウスパッケージング全事業所（エコアクションプラン2030）の取り組み 1、循環型社会の実現に貢献する ・再生樹脂・植物由来樹脂の使用率 30%以上 ・リサイクル可能な製品仕様 100% 2、低炭素社会の実現に貢献する ・事業活動（Scope1・2）での生産重量あたりCO ₂ 排出量50%削減※ ・サプライチェーン（Scope3）での販売重量あたりCO ₂ 排出量30%削減※（※ 2019年比）して行きます。
132	ヤマト運輸株式会社 川崎主管支店	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「電力消費に伴うCO ₂ 排出の段階的削減に向けてEV車両を高津区へ集中的に導入」して行きます。
133	有限会社イシザキ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2035年」までに「CO ₂ 排出量を20%削減」して行きます。
134	株式会社横浜銀行	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までにコンコルディア・フィナンシャルグループにおいて、以下のことを実現して行きます。 「・サステナブルファイナンス実行額を2兆円 うち、グリーンファイナンス1兆円 ・カーボンニュートラル」
135	Learning & Culture Innovation株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・二酸化炭素の排出量を削減します。 ・環境への貢献に関する社員の啓蒙を計ります。
136	株式会社ラボラボ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年までに事務のペーパーレス化や移動の際は公共交通機関を主に使用して行きます。
137	株式会社リットアップ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、プラスチック製品の使用を「2025年」までに削減して行きます。
138	株式会社リベラルコーポレーション		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「高津区の全企業が脱炭素アクションみぞのくち推進会議会員になるよう行動する事」をして行きます。
139	りんかい日産建設株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに「日本が目指す2050年GHG実質排出ゼロの実現に向けて取り組み、バックキャストの視点でプロジェクト「RN THE FUTURE PROJECT」を策定。2030年及び2050年をマイルストーンとする豊かな未来と確かな価値を創造」して行きます。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
140	株式会社レゾナック川崎事業所		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「CO ₂ 排出量30%削減（2013年比）」していきます。
141	和光産業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までに「ワックス清掃においてワクスルグリーンクリーニング（3 R資源循環型清掃/低CO ₂ 川崎ブランド認定）を拡大して、溶剤を含む剥離剤の使用量を2022年度比で70%削減、剥離廃液（産業廃棄物）を減らしてCO ₂ 削減への取り組みを」していきます。
142	株式会社 渡辺土木	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「炭素排出量を50%削減」していきます。

企業 104件
市民団体 16件
業界団体 12件
学校 3件
その他 7件
計 142（2025年4月30日時点）